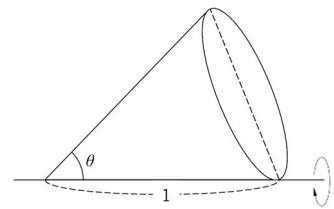


解答・解説 一図形・求積一

1. 頂点及び底面の直径を含む平面で切断したときの断面が、頂角 θ ($0 < \theta < \pi$), 等辺 1 の二等辺三角形となる直円錐がある. この直円錐を母線の 1 つを軸に一回転させたとき, 直円錐の表面及び内部が通過する領域の体積 V_θ を求めよ.



解答

準備中

$$V_\theta = \frac{2\pi}{3}(1 - \cos \theta)$$

2. 点Oを原点とするxyz空間において、 $0 < a$ を満たす a に対して

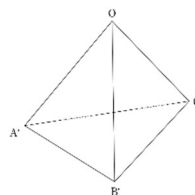
$$\overrightarrow{OA} = \begin{pmatrix} 1 \\ 1-a \\ 1 \end{pmatrix}, \overrightarrow{OB} = \begin{pmatrix} 1 \\ 1 \\ 0 \end{pmatrix}, \overrightarrow{OC} = \begin{pmatrix} -1 \\ a^{-1} \\ 2 \end{pmatrix} \text{ とする.}$$

$$\overrightarrow{OP} = s\overrightarrow{OA} + t\overrightarrow{OB} + u\overrightarrow{OC} \quad (s \geq 0, t \geq 0, u \geq 0, s+3t+2u \leq 6)$$

によって定められる点Pが存在する範囲を W_a とするとき、 W_a の体積の最小値を求めよ。

解答

$s \geq 0, t \geq 0, u \geq 0, s+3t+2u \leq 6$ は、 sty 空間では原点O及び点(6, 0, 0), 点(0, 2, 0), 点(0, 0, 3)を頂点とする四面体の表面及び内部を表す。したがって、点Pの存在する範囲は右図のような四面体の表面及び内部となる。ただし、 A', B', C' はそれぞれ、 $\overrightarrow{OA'} = 6\overrightarrow{OA}$, $\overrightarrow{OB'} = 2\overrightarrow{OB}$, $\overrightarrow{OC'} = 3\overrightarrow{OC}$ を満たす点である。この体積を V とし、これを求める。三角形 $A'B'C'$ を底面とみて、この面積と、高さに当たる点Oと平面 $A'B'C'$ の距離を求めていく。



$$\text{三角形 } A'B'C' \text{ の面積を } S \text{ とすると, } S = \frac{1}{2} \cdot |\overrightarrow{A'B'} \times \overrightarrow{A'C'}| \text{ である. } \overrightarrow{A'B'} \times \overrightarrow{A'C'} = 6 \begin{pmatrix} 6a + \frac{3}{a} - 6 \\ 9 \\ 5a - \frac{2}{a} - 2 \end{pmatrix}.$$

ここで、 $f(a) = (6a + \frac{3}{a} - 6)^2 + 9^2 + (5a - \frac{2}{a} - 2)^2$ とおくと、

$$S = 3\sqrt{f(a)}$$

また、平面 $A'B'C'$ は法線ベクトルが $\begin{pmatrix} 6a + \frac{3}{a} - 6 \\ 9 \\ 5a - \frac{2}{a} - 2 \end{pmatrix}$ で $B'(2, 2, 0)$ を通ることから、

$(6a + \frac{3}{a} - 6)(x - 2) + 9(y - 2) + (5a - \frac{2}{a} - 2)z = 0$ と表されるので、点O(0, 0, 0)と平面 $A'B'C'$ の距離 h は、

$$h = \frac{|(6a + \frac{3}{a} - 6)(0 - 2) + 9(0 - 2) + 0(5a - \frac{2}{a} - 2)|}{\sqrt{f(a)}} = \frac{|-12a - \frac{6}{a} - 6|}{\sqrt{f(a)}}$$

$$\therefore V = \frac{1}{3}Sh = |-12a - \frac{6}{a} - 6|$$

$a > 0$ より、 $12a > 0$ かつ $\frac{6}{a} > 0$ 。よって $|-12a - \frac{6}{a} - 6| = 12a + \frac{6}{a} + 6$ 。相加平均と相乗平均の大小関係より、

$V = 12a + \frac{6}{a} + 6 \geq 2\sqrt{12a \cdot \frac{6}{a}} + 6 = 12\sqrt{2} + 6$ 、等号成立は $12a = \frac{6}{a} = 6\sqrt{2} \Leftrightarrow a = \frac{\sqrt{2}}{2}$ のときで、これは題意を満たす。

$\therefore$ 答. $6 + 12\sqrt{2}$

解説・補足

ベクトルの外積や平面の方程式、点と平面の距離の公式は高校範囲ではないが、 $S = \frac{1}{2} \sqrt{|\overrightarrow{AB'}|^2 |\overrightarrow{AC'}|^2 - (\overrightarrow{AB'} \cdot \overrightarrow{AC'})^2}$ 、また平面の方程式を使わなくても $\overrightarrow{OH}$ (H は垂線の足)が $\overrightarrow{AB'}$ と $\overrightarrow{AC'}$ の一次結合で表せることを使えば高校範囲内で求められる。なおベクトルの外積 $\mathbf{x} \times \mathbf{y}$ は、 $\mathbf{x}$ から $\mathbf{y}$ への右ねじの向きに、 $\mathbf{x}$ と $\mathbf{y}$ が張る平行四辺形の面積と同じ(数字の)長さだけ伸びるベクトルを表す(したがって、一般に $\mathbf{x} \times \mathbf{y} \neq \mathbf{y} \times \mathbf{x}$)。

3. $a < 0$ または $1 < a$ とする. 2つのベクトル $\mathbf{x} = (a, 4(a-1)^{-1})$, $\mathbf{y} = (-9a^{-1}, a-1)$ が張る平行四辺形の面積の最小値及びそのときの a の値を求めよ.

解答

$\mathbf{y} = \mathbf{0}$ となるような a の値や, $\mathbf{x} = k\mathbf{y}$ ($k \in \mathbb{R}$) が成立するような a の値は存在しないので, $a < 0$ または $1 < a$ を満たすすべての a で平行四辺形が存在する。

$$\text{平行四辺形の面積は, } |\mathbf{x} \times \mathbf{y}| = |a(a-1) + 36\{a(a-1)\}^{-1}|$$

$a < 0$ または $1 < a$ であるから, $a(a-1) > 0$ 。したがって, 相加平均と相乗平均の大小関係より,

$$a(a-1) + 36\{a(a-1)\}^{-1} \geq 2\sqrt{36} = 12 \quad \text{等号成立は, } a(a-1) = 6 \Leftrightarrow a = -2, 3 \text{ のとき。これは題意を満たす。}$$

∴ 答. 最小値 12, そのときの a の値 $-2, 3$

解説・補足

問題文の記述から, 平行四辺形が存在することを断定してしまうならば最初の1文は不要。

ベクトルの外積は高校範囲ではないが, 平行四辺形の面積 $S = \sqrt{|\mathbf{x}|^2|\mathbf{y}|^2 - (\mathbf{x} \cdot \mathbf{y})^2}$ を使えば高校範囲内で求められる。

なお, ベクトルの表記法として本問では太字 $\mathbf{x}$, $\mathbf{y}$ を用いているが, 高校数学では普通 $\vec{x}$, $\vec{y}$ が用いられる。前者の記法の場合, ベクトルの大きさ (ノルム*) は単に x (細字) または $|\mathbf{x}|$, $\|\mathbf{x}\|$ と表記する。後者の記法の場合は $|\vec{x}|$, または $\|\vec{x}\|$ と表記する。前者の記法では, 零ベクトルは $\mathbf{0}$ (大文字オーのイタリック体太字) や $\mathbf{0}$ (数字の零の太字) で表される。

*「ノルム」のことを「絶対値」と表現するのは必ずしも正確ではないが, 「原点からの距離」という点で本質は同じなので, 意味上は問題ない。